



DNW-20006 の概要

課題番号 : DNW-20006

課題名 : 免疫チェックポイント阻害剤の効果を高める新たな併用療法の探索

主任研究者 (Principal Investigator) :

阪口 政清 (国立大学法人岡山大学学術研究院医歯薬学域)

課題番号 DNW-20006 では、タンパク質 X を標的として、免疫チェックポイント阻害剤の効果を高める新たな併用療法の創出に取り組んでいる。

- 創薬コンセプト :
抗 X 抗体は、骨髄由来免疫抑制細胞 (MDSC) による免疫抑制状態の解除および直接的ながん細胞の増殖・浸潤・転移抑制により、免疫チェックポイント阻害剤の効果を高める新たな併用療法に繋がる可能性がある。
- ターゲットプロダクトプロファイル :
免疫チェックポイント阻害剤との併用により、より強い抗腫瘍効果が期待できる抗 X 抗体薬。
- 創薬コンセプトの妥当性を支持するエビデンス :
以下のことが PI などにより明らかにされている。
 - 1) タンパク質 X は、MDSC の活性化を介して腫瘍の進展や転移を促進するとともに、直接がん細胞に働き増殖・浸潤・転移を促進する。抗 X 抗体やタンパク質 X の受容体デコイは、腫瘍の形成や転移を抑制する。
 - 2) メラノーマ患者での免疫チェックポイント阻害剤不応答性の原因の一つとして、タンパク質 X の血中濃度上昇に伴う MDSC 活性化および T リンパ球浸潤抑制が関与する可能性が示唆されている。免疫チェックポイント阻害剤で治療したメラノーマ患者の予後は、血中タンパク質 X 濃度が高いと不良である。
- 最終目標 :
抗 X 抗体と免疫チェックポイント阻害剤との併用効果が確認され、創薬コンセプト検証が終了した段階で企業導出を目指す。

本資料は、創薬総合支援事業（創薬ブースター）による支援の終了時の情報をもとに作成しています。